

チェックした後に意識してほしいこと

1 背景の理解

- チェック項目に当てはまったからといって、必ずしも貧困とは限りません。
- 気になるこどもがいた場合、その兆候が貧困に起因するものなのか、他の原因によるものなのか、背景にある生活課題を見極めることが大切です。
- 例えば、毎日同じ服を着ているからといって、貧困状態にあるとは限りません。
こどもが好んで同じ服を着ているのかもしれないし、貧困状態になくても、こどもの養育にお金をかけない考え方の場合、外見は質素に見えるかもしれません。
- 一方、貧困状態にあっても、こどもの養育に優先してお金を費やしている家庭の場合、外見は遜色がなく、支援の必要性に気づきにくいことがあります。
- さらに、汚れた衣服を着ていたり、食事をしていない様子が多く見られる場合は、貧困だけでなく虐待も疑われます。
- 貧困と虐待は関連のある場合があります、貧困がゆえに衣食住の満たされていない状況がネグレクトのように見えたり、将来への不安や働きづめの疲労（貧困）から保護者のストレスが蓄積し、こどもへの暴言・暴力（虐待）として現れることも考えられます。
- 事実だけに目を向けるのではなく、「なぜこのような状況になっているのか」という背景にまで気持ちを寄せ、職員間で話し合うことにより、多角的に推測しながら見立てを共有することが重要です。

2 支援にあたっての配慮

- 貧困問題への対応にあたっては、支援者の何気ない言葉により、貧困に悩む保護者の自尊心を傷つけないよう十分に注意して配慮することが大切です。
- また、衣服や食物等の現物を提供する場合も、対象の家庭が特別扱いを受けていると見られ、周囲に不公平という感情を抱かせないよう、十分な配慮が求められます。
- 特に、こどもや保護者への支援には、日頃から守秘義務にも留意し、「困ったことを相談できる」、「困ったことを聞ける」ような信頼関係を築いておくことが重要です。
- そのためにも、このチェックシートのチェック結果を職場内で共有し、できるだけ多くの人や立場からこどもたちを見つめ、チームで見守り続けることが大切です。